



# unesco

Global Geopark

# 室戸ジオパークだより Vol.79

## 高知県立室戸高等学校 室戸ジオパーク推進協議会と連携協定

### TOPICS

- ・ 室戸高校・室戸ジオパークと連携協定
- ・ 室戸の自然を利用したアクティビティ、続々！
- ・ 土佐備長炭って？
- ・ オンラインガイドに挑戦！室戸市観光ガイドの会
- ・ 佐喜浜大敷組合を取材
- ・ サイエンスカフェ報告
- ・ インストラクター養成講座報告



室戸ジオパーク推進協議会と高知県立室戸高等学校は連携協定を締結しました。

2011年度に開始された「ジオパーク学」という2年次選択授業を皮切りに、ジオパーク視点での教育を推進してきた室戸高校。その後「室戸学」という1年時必修授業も誕生し、「自分たちの住む町・室戸はどんな町か」というテーマで学びを深めています。

2019年度からは、室戸ジオパークの姉妹ジオパークであるランカウイユネスコ世界ジオパークの高校生らとの交流事業も始まり、コロナ禍の現在でもオンラインでお互い情報を共有しあっています。

さらに課外活動として、1) ジオパーク学を履修していた生徒らが三津海岸のシロウリガイ化石群を室戸市の天然記念物に指定するために活動、2) 室戸高校の避難所運営マニュアルの見直しを防災対策課の協力のもと実施、3) ランカウイを訪問した代表生徒らが室戸市議会にて活動報告など、ここには書き切れないほどの活動を室戸ジオパークと連携して実施してきました。高校生から投げかけられる素朴な疑問は、室戸ジオパークの発展のために最も大切なもの。素朴な疑問から始まって、一大プロジェクトになることもあります。

こうした流れを止めないために、7月7日に室戸高校と室戸ジオパーク間で正式に連携協定を締結しました。今後もこの紙面や各種SNS・ウェブサイト等で高校生の活躍について報告していきます。

## 室戸の自然を利用したアクティビティ、続々！

### 民宿徳増・佐喜浜川で土佐備長炭を使ったサウナ&BBQ！

佐喜浜町の「民宿徳増」では、室戸の自然を利用したアクティビティを開発しています。そのひとつがこの土佐備長炭を使ったサウナ。千葉県白子町でワーケーション事業を行う中里ベースとの共同企画です。



備長炭で熱された高温サウナで汗を流した後は、佐喜浜川に飛び込みリフレッシュ。川から上がった後は、土佐あかうしやナガレコといった地元の食材をふんだんに使ったBBQを堪能できます。

土佐備長炭の高温が長時間続く特性を活かした今回の企画。土佐備長炭で焼いたお肉は外はカリッと中はジューシーで、食材の味を一層引き立ててくれます。室戸を堪能してほしいという、徳増さんの思いが詰まった体験アクティビティです。



## 土佐備長炭って？

室戸の伝統産業である土佐備長炭。その原材料（原木）となるのがこの「ウバメガシ」です。室戸市の木でもあるウバメガシは海岸植物で、暖かい地方の海岸部から山の斜面にかけて生息しています。室戸では防風林として家の生垣に利用されていたりと、私たちの生活に馴染みの植物です。

土佐備長炭は大正時代に和歌山県から製法技術が伝わってきました。窯に入れた原木が約10分の1の体積になるまで水分を飛ばした炭は、打ち鳴らすと「キンッキンツ」と高い音色が出るのが特徴。燃料としてはもちろん、脱臭や水の浄化にも利用されています。そのほかにも風鈴などの工芸品や、パウダー状にした食用の炭まで、多様に利用される室戸の名物です。

室戸市内には約30名の炭焼き職人がおり、炭焼き職人を目指して移住してくる人も多くいます。今でも室戸を支える重要な伝統産業です。





## 佐喜浜大敷組合を取材

伝統的な大敷網漁業。5つの網から構成された大敷網を海に浮かべ、網に掛かった魚を捕ります。魚が入る網の目を徐々に小さくしていくことで、十分に育っていない魚は逃がし、大きく育った魚だけを捕まえる、持続可能な漁法です。

佐喜浜漁港ではこの日、大量のハマチが水揚げされました。近年、温暖化の影響で海環境が大きく変化していることを実感しているという漁師の皆さん。

本来夏が旬のイサキやサバが、季節関係なく年中水揚げされるこの状況に、「海の中の季節がなくなった」と寂しそうに話していました。

最近では女性の研修生が入り、学校卒業後は佐喜浜大敷組合に就職を希望しているそうです。これからの若い世代、特に女性の活躍に期待です。



研修生

たなか ゆき  
田中佑季さん

もちずき  
望月くららさん

## オンラインガイドに挑戦!

新型コロナウイルスの影響で旅行客が減っている中、室戸市観光ガイドの会はオンラインガイドの実施を目指して活動しています。そこで、6月29日に徳島県三好ジオパーク構想のガイドの皆さんに実際にオンラインガイドを見てもらい、7月24日には意見交換会を開催しました。

6月29日に実施したオンラインガイドでは「室戸の大地と共に暮らす人々」をテーマに室戸岬をガイド。三好の視聴者からは、「山と海が想像よりはるかに近いことにびっくりした」「拾ったテングサで寒天ゼリーを作っている事に驚いた」などの意見があり、室戸ならではのガイドを楽しんだ様子でした。また、ガイドの手法・カメラワーク・電波状況など実際に商品化する際の課題も見つかりました。

次回は三好の皆さんがオンラインガイドを実施する予定です。



## サイエンスカフェ報告

科学をもっと身近に感じてもらうための企画、サイエンスカフェ。研究を市民と分かち合う方法のひとつとして、定期的に行われているイベントです。今回は7人の多様な分野の研究者がオンラインで研究成果を発表。会場に集まった約30名の一般参加者は、今まで知らなかった室戸のディープな研究に興味深々でした。

植木さんの「<sup>か</sup>加<sup>な</sup>奈木のつえ」の研究は佐喜浜小学校の授業に生かされたり、<sup>あ</sup>饗<sup>い</sup>庭さんの深海生物に関する研究は地元漁師さんの協力のもと行われ、研究を通じた市民との繋がりが深く感じられる発表でした。饗庭さんの研究に協力した佐喜浜町の松尾さんは発表後「これからも研究の手伝いができたら。」と今後の研究成果に期待を寄せていました。



## インストラクター養成講座報告

室戸ジオパークが提供する人気アクティビティである、「磯遊び体験」と「サイクリングツアー」。どちらも人気のアクティビティで、最近では教育旅行の利用も増えています。講座では簡単な座学の後、実際に外に出てフィールドワークを行いました。

「磯遊び体験」ではナマコやカニ、アメフラシなど磯でくらすいきものを見つけ、実際に触って反応を観察しました。普段近くで見ることのないウツボを捕まえたりと、参加者は大興奮の様子でした。

「サイクリングツアー」では、自転車に乗って室戸岬へ向かいます。途中アクアファームで海洋深層水について学び、室戸岬では大地の成り立ちについて学びます。道のりは傾斜が少なく、眺めの良い海岸沿いを走るので、天気が良ければとても気持ちが良いツアーです。どちらもインストラクターを募集していますので、気になる方はぜひ次回の養成講座に参加してみてくださいね。

【電話】 0887-22-5161

【Eメール】 [info@muroto-geo.jp](mailto:info@muroto-geo.jp)

【住所】 〒781-7101高知県室戸市室戸岬町1810-2 (担当: 和田也実)

発行：室戸ジオパーク推進協議会

